

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
5月24日発行 NO.5
文責 出崎 友英

体育大会で学んだこと

5月17日、初夏を思わせるような晴天に恵まれて、アスリートの聖地といえる水前寺陸上競技場を舞台に、錦ヶ丘中の体育大会が行われました。準備期間が短く、また今年度新たなプログラムや取り組みもあり、私自身も練習期間に不安を感じることもありました。

しかし、その不安は杞憂でした。

朝の開会式での熱量のある選手宣誓。そして次々と繰り広げられるプログラム。プログラムとプログラムの間もとてもスムーズに行動できていました。トラックを一生懸命走る姿。見事なバトンの受け渡し。それぞれの学年のクラス対抗競技での白熱した戦いと、喜びを分かち合う先生と生徒たち。係りの仕事に一生懸命取り組んでいる様子。真剣な表情でアナウンスをしている横顔。スタンドのあちらこちらから聞こえてくる応援の声や拍手。男子の切れのある動きと声の集団演技。生き生きと躍動する女子のダンス。力作ぞろいの各団の団旗…。そして、全校生徒・先生方が一体となった全校ダンス。…そんな感動的な瞬間や生徒の皆さんと先生方の笑顔が数え切れないほどありました。

閉会式後、リーダーを務めた一人一人からはやり遂げた達成感や支えてくれた人たちへの感謝の言葉がありました。そのリーダーたちに対して、みんなから温かい拍手が送られていました。➤

「頑張ってたよかった。」「不安だったけどやってよかった。」「あきらめないでやり通してよかった。」「仲間を信じてよかった。」…

そんな体育大会での感動やあの笑顔は、頑張った君たちの努力が報われた瞬間なのだ、と私は思いました。生徒の皆さん、本当によく頑張りました。

「Never say never～ 勝利(せいしゅん)を掴み取れ 錦スマイル～」の体育大会テーマに込めた君たちの思いをしっかりと見せてもらいました。

しかし、これで終わってはいけません。

「試合終了のホイッスルは、次の試合へのキックオフの合図である。」

これは、かつてサッカー日本代表のコーチを務めたデットマール・クラマー氏の言葉です。

試合が終わった時にその試合を振り返ると、できたこと、よかったこと、できなかったこと、反省点や改善点などいくつもの学びがあるはず。それを大切に忘れないようにして、次の試合に向けた取り組みに生かすことが、更なる成長の種になります。

体育大会で学んだことをもとにして、更なる高みを目指して、錦ヶ丘中学校生徒と先生で前進していきましょう。



心肺蘇生法講習会がありました。

5月20日(月)、先生方の「心肺蘇生法講習会」がありました。

もしもの時の対応について、いくつかの事例をもとに研修をして、その後グループに分かれてエピペンの使い方や胸骨圧迫の仕方、AEDの使い方などを実技研修しました。万一の時に正しい対応をするための大切な研修で、先生方もお互い確認し合いながら研修に取り組みしていました。講師をされた〇〇先生、〇〇先生、企画準備いただいた先生方、ありがとうございました。



◆お知らせです。

〇4月末にアメリカで開催された世界ジュニアチアリーディング選手権大会に3年生の〇〇〇〇さんが日本代表の一員として出場し、リズムカルでパワフルなダンスで見事優勝を果たしました。〇〇さんそしてチームの皆さん、世界一おめでとうございます。



〇5月23日から前期の教育実習が始まりました。本校では4人の実習生が実習に取り組みます。教師を志す人が減少していて、これからの学校教育に大きな影響を与えることがとても心配されています。

この実習を通して、教師になろうという志をより高めてくれることをとても期待しています。4人の実習生の皆さん、がんばってください。



今日の成果は過去の努力の実であり、
未来の成果はこれからの努力で決まる。